

### 三、特別活動の推進

児童生徒の心身の調和的発達、学校生活のどのような場をとおして達成されているとみたらよいであろうか。また、児童生徒の側からすると、学校

表4 昭和五十二年学校体育充実のための重点事項

項目	重点事項	小学校	中学校	高等学校
1. 学習指導の充実	(1) 指導法の改善を図る。 (2) 運動技能の向上に努める。	指導内容を精選し、重点的な指導をする。 ○どんな動きを開発し、どんな力を高めるのかを明らかにする。 ・学習における人間関係を大事にする。 運動の特性をふまえ、系統的・段階的な指導をする。 ○一人一人の能力・性格に応じた指導をする。 ・教育機器・資料の活用を図る	○教材の中核になるものを明確にして指導をする。 ・目標・内容に応じた学習形態をくふうする。 ○一人一人の能力に応じた意欲づけを図る。 ・教育機器、資料の活用を図る	○事前研究を充実し、重点的指導をする。 ・年間指導計画の充実を図る。 ○科学的な練習と、指導の個別化を図る。 ・種目ごとの到達目標を定める。
2. 体力の向上	(1) 体力づくりに努める。 (2) 魅力的な体育行事を実施する。	課題に向かって、全力でいどむ学習態度を育てる。 ○多彩な運動を豊富に経験させる。 ・毎時間、全力で走る運動を取り入れる。 児童・生徒の実態と、生活化を考慮した魅力ある行事とする。 ○学級経営の中で、くふうされた行事をもつようにする。 ・事前・事後指導をたいせつにする。	○領域ごとの補強・補助運動のセット化をくふうする。 ・全力で走る運動を、意図的に取り入れる。 ○行事の精選・季節との関連を考え、魅力ある内容にする。 ・準備期間をじゅうぶんとり、進んで参加させる。	○運動量を豊富にし、基礎体力の向上を図る。 ・到達目標に向かって、意欲的にいどむ態度を育てる。 ○適正な行事を開催する。 ・全職員の共通理解と、生徒の積極的な参加を図る。
3. 障害児の指導	(1) 障害児の理解に努める。 (2) 障害児指導を適切にする。	人間関係をたいせつにした学習指導をする。 ○変容を認め賞賛し、劣等感を除去する。 ・障害の程度に応じた活動の場を配慮する。 適切な役割分担により、活動に参加させる。 ○運動に興味・意欲をもたせるようにする。 ・障害の程度により、運動量を考慮する。	○劣等感を除去するため、グループ編成をくふうする。 ・できるだけ、普通生徒と同じく取り扱うようにする。 ○障害の種類、程度に応じた内容と方法をくふうする。 ・課題にたち向かう精神力の啓発をする。	○障害に対する劣等感を持たせないように指導する。 ・差別により過保護にならないように注意する。 ○長所・素質の発見と、個性伸長を図る個人指導をする。 ・体育を理解させ、積極的な参加を促進する。
4. 安全指導	(1) 事故・災害に対する関心を高める。 (2) 体育時の事故防止に努める。	安全意識の高揚と、安全能力を育てる。 ○体育時における事故・災害発生について具体的に理解させる。 ・情緒の安定を図り、冷静に行動させる。 施設・用具の定期点検と、潜在危険の除去に努める。 ○能力の劣る児童・性格的に問題をもつ児童の指導を重視する。 ・真剣に学習する態度を育てる。	○危険を予測し、対処できる態度や能力を身につける。 ・点検・安全確認の励行を推進する。 ○正しい練習のしかた、補助のしかたの指導をする。 ・真剣に授業に取り組ませる。	○体育時の事故・災害を分析し事故防止できる能力を高める。 ・指導が消極的にならないように注意する。 ○積極的な指導により、事故防止能力の向上を図る。 ・正しい運動のしかたを指導する。
5. 集団指導	(1) 適切な集団行動の指導に努める。 (2) 集団行動の生活化を図る。	全職員の共通理解に基づいた指導をする。 ○学年により、集団行動のゲーム化等をくふうする。 ・全児童に、集団行動の意義をじゅうぶん理解させる。 教育活動全体とのかかわりをたいせつにし、指導をする。 ○強制となり、児童にきらわれないようにする。 ・校内研修会等により、指導法の充実を図る。	○学校や学年集会等を、訓練の場として生かすようにする。 ・集団行動様式の徹底を図る。 ○集団行動を日常生活の中に定着するようにさせる。 ・能率的で安全な行動を身につけることの重要性を認識させる。	○基本的集団行動様式の指導の徹底を図る。 ・諸集会時の適切な集団行動の指導に努める。 ○学校全体の指導体制の確立を図る。 ・目的や場にあった行動ができるように指導する。
6. 評価のくふう	(1) 資料の収集と活用を努める。 (2) 一人一人を生かす評価をくふうする。	評価基準、方法を定め、継続的に資料を生かす方について、全職員の共通理解を図る。 ○学年別・種目別の資料収集計画を作成する。 個人の変容を認め、意欲をもたせる評価をする。 ○自己評価、相互評価を生かすようにする。 ・学年、種目に応じた到達目標を定める。	○資料を収集し、活用する。 ○領域、種目別に全学年をととした資料収集の方法をくふうする。 ・資料の有効な活用の方について、共通理解を図る。 ○はげましと賞賛、つまづきに対する手だてをくふうする。 ・体格・体力に合った目標の個別化を図る。	○指導内容や生徒の実態に即した資料収集と活用を、総合的な資料収集をする。 ○到達目標の設定と、個人の進歩に合った評価をくふうする。 ・相互評価、個人評価ができるように指導する。
7. クラブ活動	(1) 体育クラブ活動の充実を図る。 (2) クラブの運営をくふうする。	クラブ活動の意義を理解させ、自主的活動を促進する。 ○年間指導計画を作成し、充実した指導をする。 ・教師・児童・施設等を考慮したクラブを設置する。 全員が楽しく参加できる、魅力的な運営をする。 ○教師と児童、児童同士の信頼感を深める。 ・活動時間を確保する。	○学校の実態を考慮したクラブを設置する。 ・クラブごとの活動計画を作成し、指導を充実する。 ○一部の生徒の活動や、部活動の延長にならないようにする。 ・活動時間を確保する。	○生徒の自主的活動をもり上げるようにする。 ・施設・用具の多面的利用をくふうする。 ○個性の伸長とおし、人間形成の場となるようにする。 ・科学的な練習の指導をする。
8. 保健学習	(1) 指導計画の充実を図る。 (2) 指導の充実を努める。	指導内容の精選を図り、重点事項を明確にする。 ○重点指導内容と指導時間の配分をくふうする。 ・生活との関連を密にした計画を作成する。 基礎的事項を明確にし、効果的な指導をする。 ○指導目標を具体的に、基礎的事項を理解させる。 ・日常生活、地域社会等の関連を重視した指導をする。	○生徒・地域の実態をふまえて実践化を目指す指導計画の作成をする。 ・実験・実習を取り入れるよう指導時間の配分をくふうする。 ○具体目標を立て、その具現化を図る。 ・実験・実習を取り入れた学習を展開する。	○地域や学校の実情を考慮した指導計画の作成をする。 ・実験・実習を効果的に入れるような内容にする。 ○指導目標を明確にし、系統的な指導を行う。 ・教育機器・資料の活用により効果的な指導をする。

のどの場の、どのような活動内容によって、自己開発、自己実現を図っていると考えるのであろうか。こうした学校教育の個性をもつ基本的な問題を考えるとき、学校は、個人差のある児童生徒の人間形成のために、調和と統一のある教育活動を展開するよう

努力する必要がある。その意味で特別活動は重要な位置をしめるものである。  
(1) 体育的クラブ活動の運営  
① 必修としてのクラブ活動  
学校教育の場においては、学級、学年の所属を離れて、共通の興味や関心をもった児童生徒の組織をつくり、そ

の中で各人の個性を發揮させながら、互いに理解し協力し合うという社会性を養い、人間としての調和のとれた発達を図ることが重要な課題となる。クラブ活動を推進していくにあたっては、この趣旨をじゅうぶん理解し、助言、指導にあたることが重要である。